

2021年11月25日

### 島根中央信用金庫 2021年度上半期の業績について

島根中央信用金庫(島根県出雲市今市町 理事長 福間均)の2021年4~9月の業績は、売上高にあたる経常収益は前年同期比7.3%減の22億55百万円、純利益は11.3%増の5億82百万円で上半期では過去最高益でした。減収は4期ぶり、増益は3期連続となりました。

投資信託の中途解約損益を除く、最も基礎的な収益力を示すコア業務純益は8.5%増の4億35百万円で、7期連続増加し過去最高となりました。

経常利益は10.6%増の6億16百万円で、店舗関連費用を含む業務経費が14百万円増加、貸倒引当金はコロナ対応で個別貸倒引当金を2億95百万円増加させたものの、一般貸倒引当金が減少したことから前年同期比1億64百万円減の1億40百万円を繰り入れました。

経営の健全性を示す自己資本比率は0.06ポイント減の9.23%で、不良債権比率は6.28%でした。

#### 《2021年度上期 業績の概要》

単位:百万円、%

	2021年 9月末	2020年 9月末	増減額	増減率
預金残高	260,438	239,950	20,488	8.53
貸出金残高	144,042	135,340	8,702	6.42
経常収益	2,255	2,432	△177	△7.30
経常利益	616	557	59	10.63
当期純利益	582	523	59	11.39
コア業務純益	435	665	△230	△34.59
コア業務純益(投資信託解約損益を除く)	435	400	34	8.56
自己資本比率	9.23	9.29		△0.06

※単位未満切り捨て

- 経常収益は、コロナ禍で苦しむ地元企業へ積極的な資金援助を行ったことによる貸出金利息の増加 42 百万円や、有価証券関係益の増加 30 百万円等があった一方、前年同期に 2 億 64 百万円計上した投資信託の中途解約益を今期は計上しなかったことから、1 億 77 百万円の減収となりました。
- コア業務純益は、前年同期に 2 億 64 百万円計上した投資信託の中途解約益を今期は計上しなかったことから 2 億 30 百万円減少の 4 億 35 百万円となりました。
- 最も基礎的な収益力を示すコア業務純益(投資信託解約損益を除く)は、多くのお客様に当金庫を利用して頂いたことで預金残高や貸出残高が過去最高となったことや、第 5 次中期経営計画の取組みにより効率性が向上したことで、7 期連続増加し過去最高の 4 億 35 百万円となりました。
- 経常利益は、有価証券関係損益が前年同期比 1 億 23 百万円増加したことや信用コストが前年同期 3 億 4 百万円から今期は 1 億 40 百万円に減少したことなどから 59 百万円増益の 6 億 16 百万円となり 3 期連続増加し過去最高となりました。
- 自己資本比率は、貸出金残高や有価証券残高が増加したことにより 0.06 ポイント低下の 9.23%となりました。なお、国内基準 4%を大きく上回る水準を維持しており、健全性に問題はありません。
- 金融再生法による開示債権は 91 億 81 百万円で、不良債権比率は 6.28%となりました。不良債権の 83%は担保や保証、貸倒引当金により高い保全率でカバーされ、残り 17%は自己資本で十分カバーしており健全性に問題はありません。

本件に対するお問い合わせ先  
経営企画部 竹下 TEL(0853)20-1000(代表)